



# どうとくのひろば

## 1年生の道徳の授業

主題名：こまっているともだちに

ねらい：【友情・信頼】

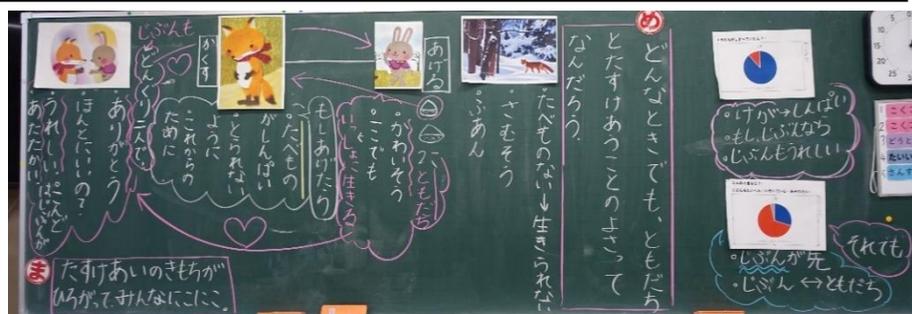
身近な友達と仲良く活動し、助け合うことの大切さに気付き、困っているときは互いに助け合おうとする心情を育てる。

教材名：『くりのみ』

あらすじ： 寒い北風の吹く冬の森で、きつねとうさぎは、お腹を空かせて食べ物を探しに行きました。たくさんのだんごりを見つけたきつねは、一人でお腹いっぱい食べた後、残りのどんごりを隠しておき、独り占めしようと思いました。帰り道、再びうさぎに出会ったきつねは、何も見付からずお腹が空いていると嘘をつきます。うさぎは、きつねを心配して、たった二つしか見付からなかった栗の実を一つ、きつねに分けてくれました。きつねは、その栗の実を握りしめると、涙をぽろぽろこぼしました。

### 授業での具体的な様子

アンケートで、ほとんどの人が「友達が困っていたら助ける」と答えた一方、「急いでいる・遊びたい・自分も大変だったら」という質問には半分以上の人が「迷う」と答えており、授業の最初に



この結果について話し合いました。「助けたいけど自分も大切だから迷う」「それでも、助けたいよ」などという意見から、どんなときでも友達と助け合うよさについて考えることになりました。

教材文を読んだ後、まず、きつねとうさぎの両方の気持ちを考えました。子供たちは、「これから冬になるから、食べ物を隠したきつねの気持ちも分かる」「自分がきつねでも、どんごりをあげるか迷う」と、助け合うことの難しさに気付いたり、「うさぎは、きつねを心から心配したのかな」「たった2こしかない栗を分けるなんてすごい」とうさぎの行動の尊さに気付いたりしていました。その後、うさぎの行動に対して涙を流すきつねの気持ちを考え、この後のきつねの行動を想像することで、今日のめあてである「助け合うことのよさ」に迫りました。「うさぎが、自分も大変なのに助けようとしてくれたことがうれしかったんだと思う」「ありがとうの涙だと思うよ」「きつねは、どんごりのことを話して、二人で一緒に食べると思う。今度は自分がうさぎを助けたいと思っていると思う」などと話し合い、どんなときでも助け合おうとする気持ちをもつことで、あたたかい気持ちが広がり、みんなが笑顔で過ごせるというよさに気付きました。以下は子供たちの振り返りです。

- これからは、自分も困っている人を助けたい。
- 人を助けると自分の心もあたたかくなると分かった。
- 「もし自分だったら」と考えることができた。悲しい気持ちの人がいたら助け合いたい。
- 人を助けると、自分にも返ってくる。僕も、いつでも友達と助け合いたい。
- 知らない人でも、困っていたら助けたい。

切り取り

道徳だよりへのご質問・ご感想

( )年 ( )組 児童名 ( )

